

土岐の昔ばなし
第二話

孝助の嫁



TOKI-City
tourism association
土岐市観光協会

【ヒトツバタゴ・国指定天然記念物】
五月上旬にかけて新緑の樹上に純白の雪が降り積もったような花が咲き、通称「なんじゃもんじゃ」という。愛知県、岐阜県の木曾川沿いの地域と長崎県の対馬に自生地があるのみである。岐阜県境の馬籠にあるものが、北限とされている。



ヒトツバタゴ・国指定天然記念物



Webサイトへ

土岐の昔ばなし 閲覧・印刷できます！
右のQRコードから下記URLからWebサイトにアクセスしてください。
<http://toki-kankou.jp/toki-old-story>

発行：土岐市観光協会
事務局 〒509-5192
岐阜県土岐市土岐津町土岐口2101
(土岐市役所産業振興課内)
TEL 0572-54-1111 FAX 0572-54-0210
<http://toki-kankou.jp>

こうすけ よめ 孝助の嫁

(再話…水野洋子)
(絵…安藤 實)

おとみいけ みわ

むかし、大富池は、三輪の森と呼ばれ昼でも暗い不気味な森のなかにあつたげな。その北ぶきみに、働き者で親孝行な孝助という息子が、おかあおとみいけと二人で住んでおつたんや。

ある日、孝助は町へおかあおとみいけの目の薬を買いに出かけた。その帰り、池のそばで、白いかわい花をつけている木をみつけた。そこに近づくと、ケガをしてうずくまっている子ギツネがいたんや。よくみると、足にとげがささっている。孝助がとげをとって手当てをしてやると、子ギツネは、孝助を見い見い森に消えたんや。

あくる年、おかあが病気になつてまつて、孝助はいつもより働くもんで、ぐつすり眠つてしまふ日がつづいたそんなある晩、枕元まくらもとに美しい娘がすわつていて、

「私を、嫁にしておくれ」

と頭を下げたんや。おつたまげた孝助は、

「どうして、ここへ来たんや」

とたずねると、娘は、

「一緒に働かせてくんりよ」

というて動かんし、気のいい娘だったので、一緒にになり、二人で田畑に精を出していたんや。そのうち赤坊ができて、生まれる頃、

「私が来てというまでは、絶対に見にきちやこまります。約束しておくれ」

といつて、奥の室へ入つてしまつたんや。しばらくすると、元気な赤坊の泣き声がしてきた

けど、孝助は子どもを見たくても、約束があつてさ、見ることができなかつたんや。

三日目の晩、がまんできなくなった孝助は、すき間からのぞいてしまつたんや。すると、森でとげを取つてやつたギツネが、赤坊をだいとつたんや。

「見られてしもうては、一緒に暮らせませぬ。この子に私の持つている子守りの金の棒ぼうをあげます。これさえあれば、丈夫じょうぶに成長するでしょう。この子が十八の年に、この棒をあの白い花の木の下に持つて来ておくれ」といい残し消えてしまつたんや。

十八年たつて、白い花の木へ金の棒を持参した孝助親子は、わが子の成長をかげながら金の棒たたくに託し、精根せいこんつきたあのギツネに会つたげな。

「おっかさん」

「よう大きくなつて、うれしい」

この話を聞いた里人は、ギツネの親心にうたれ、白い花の木の下に子どもやしろの成長を祈つて、社やしろをつくり、あの金の棒をまつつて、子どもが丈夫に育つように祈つたげな。

おしまい

白い花は、天然記念物の「ヒトツバタゴ」で白山神社の境内にあります。



このお話は、(社)土岐青年会議所発刊の『土岐の昔ばなし』から転載させていただきました。